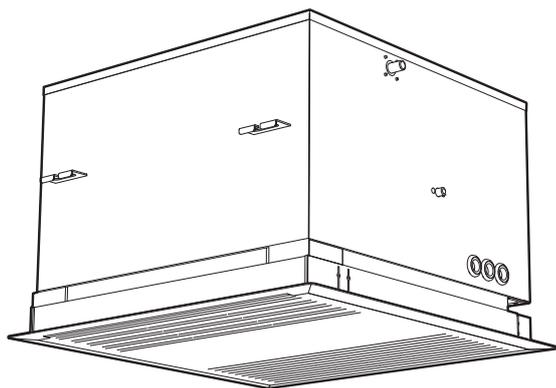


天埋カセット型、滴下浸透気化式加湿器

てんまい加湿器®

試運転作業要領書

加湿器本体



WM-VCJ2200 / WM-VCJ2200A

リモコンスイッチ

標準リモコンスイッチ
(WM-VKRM-1A)

ヒューミ付リモコン
(WM-HRM101)



- 本書は、加湿器本体の取付、給排水接続、電気配線（計装）、設定作業の施工完了後、加湿器が正常に運転することを確認する作業要領を記載しています。
- 各種施工作业は別冊の「施工要領書」をご参照ください。
- 施工後の各種設定作業は別冊の「設定要領書」をご参照ください。
- 各項目に「試運転チェックリスト」を添付しています。試運転報告書作成にご活用ください。

QRコードについて

本書では、説明を補完するための情報を、QRコードによりご案内しています。
ご利用時に発生するパケット通信料はお客さまのご負担となります。WiFi環境下でのご利用をお勧めいたします。
※ QRコードは（株）デンソーウェーブの登録商標です。

もくじ

安全のために必ず守ること P.1

1 機器構成の確認と参照頁 - 試運転作業の前に -
ヒューミディスタット無し / 湿度検知をしない場合を含む

- 1-1 客先ご用意の外部ヒューミディスタットで湿度検知する場合 P.2
- 1-2 ヒューミ付リモコンで湿度検知する場合 P.3
- 1-3 VCJ2200A 内蔵ヒューミディスタットで湿度検知する場合 P.4

2 客先ご用意の外部ヒューミディスタットで湿度検知する場合

- ヒューミディスタット無し / 湿度検知をしない場合を含む
- 2-1 試運転準備 P.5
- 2-2 試運転手順 P.6
- 2-3 試運転後の作業と最終点検 P.6
- 試運転チェックリスト P.7

3 ヒューミ付リモコンで湿度検知する場合

- 3-1 試運転準備 P.8
- 3-2 試運転手順 P.9
- 3-3 試運転後の作業と最終点検 P.9
- 試運転チェックリスト P.10

4 VCJ2200A 内蔵ヒューミディスタットで湿度検知する場合

- 4-1 試運転準備 P.11
- 4-2 試運転手順 P.12
- 4-3 試運転後の作業と最終点検 P.12
- 試運転チェックリスト P.13

5 警報について

- 5-1 警報発報時の運転停止動作およびリモコンスイッチの表示について P.14
- 5-2 警報表示の原因と処置 P.14
- 5-3 擬似警報発報手順とリセット方法 P.14

6 参考

- 6-1 コントロールユニット詳細 P.15
- 6-2 シリアルNo.、ロットNo表示位置 P.15

機器構成の確認と参照頁

客先ご用意の外部ヒューミディスタットで湿度検知する場合

ヒューミ付リモコンで湿度検知する場合

VCJ2200A内蔵ヒューミディスタットで湿度検知する場合

警報について

参考

安全のために必ず守ること

- ・この「安全のために必ず守ること」をよくお読みの上、取り扱ってください。
- ・ここに記載した注意事項は、安全に関する重大な内容です。必ず守ってください。
- ・誤った取り扱いをしたときに生じる危険とその程度を、次の表示で区分して説明しています。

 警告	誤った取り扱いをしたときに、使用者が死亡、重症を負う可能性があるもの
---	------------------------------------

 注意	誤った取り扱いをしたときに、使用者が軽傷を負う可能性や物的損害の発生に結びつくもの
---	---

・図記号の意味は以下のとおりです。

 必ず守る	 絶対しない	 触らない	 濡れ手禁止 絶対に濡れた手で触らない	 水濡れ禁止 絶対に水に濡らさない
---	--	---	--	--

警告

 必ず守る	取付工事は、専門業者に依頼する 取付工事に不備があると、水もれや感電、火災等の事故の原因になります。
---	--

 必ず守る	高所作業時の安全を確保する 高さが2メートル以上の箇所で行うときは、適正な足場を確保し安全帯を使用する等、墜落による作業者の危険を防止するための措置を講じてください。
---	---

 必ず守る	ディップスイッチ切替作業は、必ず漏電ブレーカを遮断してから行う 通電したままの作業は感電の原因になります。
---	---

 必ず守る	活線作業を行う際は、絶縁用保護具を着用するか、活線作業用器具を使用する 適切な保護具、器具を使用しない場合、感電の原因になります。
---	---

 必ず守る	電気工事は、電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」「内線規定」および製品添付の説明書類に従って施工する 電源回路要領不足や取付不備があると感電・火災の原因になります。
---	--

 必ず守る	電気配線は所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように確実に固定する 接続や固定が不完全な場合は、発煙、火災の原因になります。
---	--

 必ず守る	加湿器元電源には、必ず加湿器専用の漏電ブレーカを取り付ける 漏電ブレーカが取り付けられていないと、感電の原因になります。
---	--

 必ず守る	工事部材は付属品および指定の部材を使用する 寸法や材質等の適合しない部材を使用すると、落下・水もれ・感電・火災などの原因になります。
---	--

 必ず守る	作業時は、けが防止のため保護用手袋を着用してください やけど・けがの原因になります。
---	--

 絶対しない	改造はしない 故障や水もれ・感電・火災の原因になります。
--	--

 水濡れ禁止	加湿器本体・リモコンスイッチに水、液体をかけること ショート・漏電・感電・事故・発煙・火災の原因になります。
--	--

 濡れ手禁止	濡れた手で電気部品に触ったり、スイッチ・ボタンを操作しない 感電・事故・発煙・火災の原因になります。
--	--

 触らない	運転中および運転停止直後の電気部品に素手で触らない やけど・感電の原因になります。
---	---

注意

 必ず守る	水道法、消防法等に規制される部材の取り扱いについては、専門業者に依頼する 法令を遵守した施工が必要です。
---	--

 絶対しない	濡れて困る物の上に加湿器を設置しない 適切にメンテナンスがされていない場合、水もれの恐れがあります。
--	--

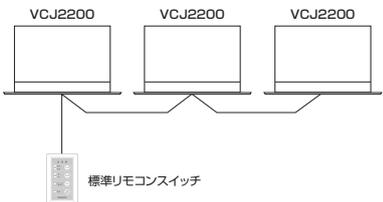
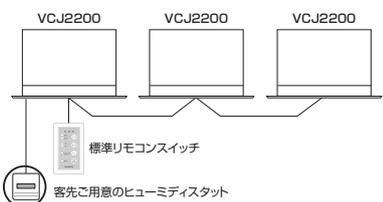
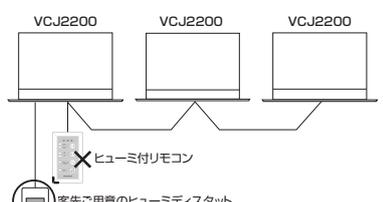
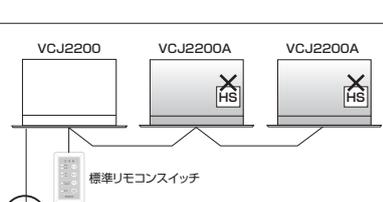
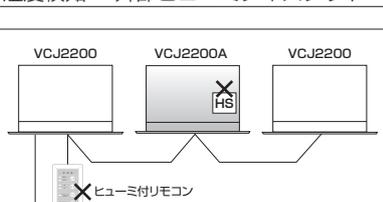
 必ず守る	アース接続（D種接地工事）を行ってください アース線は、ガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。アースが不完全な場合は、感電の原因になります。
---	--

 絶対しない	移動できないものの上に加湿器を設置しない 後々のメンテナンスができなくなる恐れがあります。
--	---

1 機器構成の確認と参照頁 - 試運転作業の前に -

試運転作業の前に P.2 ~ P.4 に記載の機器構成を確認し、指示された頁を参照してください。

1-1 客先ご用意の外部ヒューミディスタットで湿度検知する場合 (ヒューミディスタットなし、湿度検知をしない場合を含む)

機器構成	湿度検知	試運転前の設定確認項目	試運転作業内容
<p>①</p>  <p>加湿器 : VCJ2200 リモコン : 標準リモコンスイッチ 湿度検知 : 行わない</p>	<p>VCJ2200 を標準リモコンスイッチで単独運転またはグループ運転させる組合せで、湿度検知を行わない。</p>	<p>試運転の前に、以下の事項を確認してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●加湿器本体内部端子台の端子 L1、L2 が短絡されていることを確認してください。 	<p>P.5 を参照</p>
<p>②</p>  <p>加湿器 : VCJ2200 リモコン : 標準リモコンスイッチ 湿度検知 : 外部ヒューミディスタット</p>	<p>VCJ2200 を標準リモコンスイッチで単独運転またはグループ運転させる組合せで、客先ご用意の外部ヒューミディスタットで湿度検知を行う。</p>	<p>試運転の前に、以下の事項を確認してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●客先ご用意の外部ヒューミディスタットが加湿器本体内部端子台の端子 L1、L2 に接続されていること。 	<p>P.5 を参照</p>
<p>③</p>  <p>加湿器 : VCJ2200 リモコン : ヒューミ付リモコン 湿度検知 : 外部ヒューミディスタット</p>	<p>VCJ2200 をヒューミ付リモコンでグループ運転させる組合せで、客先ご用意の外部ヒューミディスタットで湿度検知を行う。</p>	<p>試運転の前に、以下の事項を確認してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●客先ご用意の外部ヒューミディスタットが加湿器本体内部端子台の端子 L1、L2 に接続されていること。 ●別冊の設定要領書 9-3 ヒューミ付リモコン上で湿度検知するヒューミディスタットを選択する 制御グループパターンB に記載されている設定が完了していること。 	<p>P.5 を参照</p>
<p>④</p>  <p>加湿器 : VCJ2200+VCJ2200A リモコン : 標準リモコンスイッチ 湿度検知 : 外部ヒューミディスタット</p>	<p>VCJ2200 と VCJ2200A を標準リモコンスイッチでグループ運転させる組合せで、客先ご用意の外部ヒューミディスタットで湿度検知を行う。</p>	<p>試運転の前に、以下の事項を確認してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●客先ご用意の外部ヒューミディスタットが加湿器本体内部端子台の端子 L1、L2 に接続されていること。 ●別冊の設定要領書 9-2 VCJ2200A 内蔵ヒューミディスタットを無効化する 制御グループパターンD に記載されている設定が完了していること。 	<p>P.5 を参照</p>
<p>⑤</p>  <p>加湿器 : VCJ2200+VCJ2200A リモコン : ヒューミ付リモコン 湿度検知 : 外部ヒューミディスタット</p>	<p>VCJ2200 と VCJ2200A をヒューミ付リモコンでグループ運転させる組合せで、客先ご用意の外部ヒューミディスタットで湿度検知を行う。</p>	<p>試運転の前に、以下の事項を確認してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●客先ご用意の外部ヒューミディスタットが加湿器本体内部端子台の端子 L1、L2 に接続されていること。 ●別冊の設定要領書 9-4 VCJ2200A 内蔵ヒューミディスタットを無効化し、ヒューミ付リモコンで湿度検知するヒューミディスタットを選択する 制御グループパターンB に記載されている設定が完了していること。 	<p>P.5 を参照</p>

機器構成の確認と参照頁

客先ご用意のヒューミディスタットで湿度検知する場合

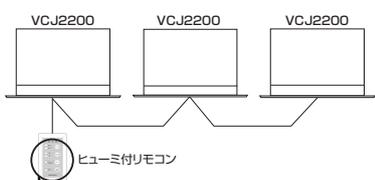
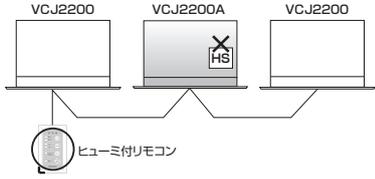
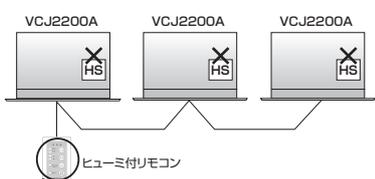
ヒューミ付リモコンで湿度検知する場合

VCJ2200A内蔵ヒューミディスタットで湿度検知する場合

警報について

参考

1-2 ヒューミ付リモコンで湿度検知する場合

機器構成	湿度検知	試運転前の設定確認項目	試運転作業内容
<p>6</p>  <p>加湿器 : VCJ2200 リモコン : ヒューミ付リモコン 湿度検知 : ヒューミ付リモコン</p>	<p>VCJ2200 をヒューミ付リモコンで単独運転またはグループ運転させる組合せで、ヒューミ付リモコンで湿度検知を行う。</p>	<p>標準設定のため設定確認項目はありません。</p>	<p>P.8を参照</p>
<p>7</p>  <p>加湿器 : VCJ2200+VCJ2200A リモコン : ヒューミ付リモコン 湿度検知 : ヒューミ付リモコン</p>	<p>VCJ2200 と VCJ2200A をヒューミ付リモコンでグループ運転させる組合せで、ヒューミ付リモコンで湿度検知を行う。</p>	<p>標準設定のため設定確認項目はありません。</p>	<p>P.8を参照</p>
<p>8</p>  <p>加湿器 : VCJ2200A リモコン : ヒューミ付リモコン 湿度検知 : ヒューミ付リモコン</p>	<p>VCJ2200A をヒューミ付リモコンで単独運転またはグループ運転させる組合せで、ヒューミ付リモコンで湿度検知を行う。</p>	<p>標準設定のため設定確認項目はありません。</p>	<p>P.8を参照</p>

機器構成の確認と参照頁

客先ご用意のヒューミスティックで湿度検知する場合

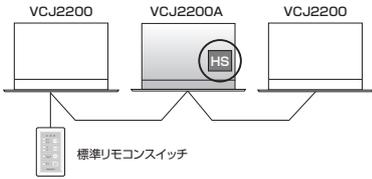
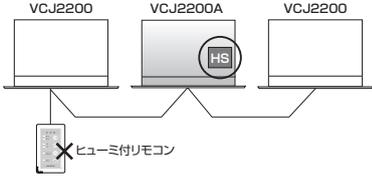
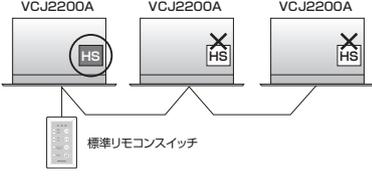
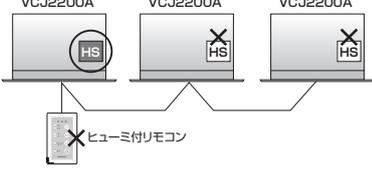
ヒューミ付リモコンで湿度検知する場合

VCJ2200A内蔵ヒューミスティックで湿度検知する場合

警報について

参考

1-3 VCJ2200A 内蔵ヒューミディスタットで湿度検知する場合

機器構成	湿度検知	試運転前の設定確認項目	試運転作業内容
<p>9</p>  <p>加湿器 : VCJ2200+VCJ2200A リモコン : 標準リモコンスイッチ 湿度検知 : VCJ2200A 内蔵ヒューミディスタット</p>	<p>VCJ2200とVCJ2200Aを標準リモコンスイッチでグループ運転させる組合せで、1台のVCJ2200A内蔵ヒューミディスタットを有効にして使用する。</p>	<p>標準設定のため設定確認項目はありません。</p>	<p>P. 11 を参照</p>
<p>10</p>  <p>加湿器 : VCJ2200+VCJ2200A リモコン : ヒューミ付リモコン 湿度検知 : VCJ2200A 内蔵ヒューミディスタット</p>	<p>VCJ2200とVCJ2200Aをヒューミ付リモコンでグループ運転させる組合せで、1台のVCJ2200A内蔵ヒューミディスタットを有効にして使用する。</p>	<p>試運転の前に、以下の事項を確認してください。 ●別冊の設定要領書 9-3 ヒューミ付リモコン上で湿度検知するヒューミディスタットを選択する 制御グループパターン⑨に記載されている設定が完了していることを確認してください。</p>	<p>P. 11 を参照</p>
<p>11</p>  <p>加湿器 : VCJ2200A リモコン : 標準リモコンスイッチ 湿度検知 : VCJ2200A 内蔵ヒューミディスタット</p>	<p>VCJ2200Aを標準リモコンスイッチでグループ運転させる組合せで、1台(任意)のVCJ2200A内蔵ヒューミディスタットを有効にして使用する。</p>	<p>試運転の前に、以下の事項を確認してください。 ●別冊の設定要領書 9-2 VCJ2200A内蔵ヒューミディスタットを無効化する 制御グループパターン⑩に記載されている設定が完了していることを確認してください。</p>	<p>P. 11 を参照</p>
<p>12</p>  <p>加湿器 : VCJ2200A リモコン : ヒューミ付リモコン 湿度検知 : VCJ2200A 内蔵ヒューミディスタット</p>	<p>VCJ2200Aをヒューミ付リモコンでグループ運転させる組合せで、1台(任意)のVCJ2200A内蔵ヒューミディスタットを有効にして使用する。</p>	<p>試運転の前に、以下の事項を確認してください。 ●別冊の設定要領書 9-4 VCJ2200A内蔵ヒューミディスタットを無効化し、ヒューミ付リモコンで湿度検知するヒューミディスタットを選択する 制御グループパターン⑩に記載されている設定が完了していることを確認してください。</p>	<p>P. 11 を参照</p>

機器構成の確認と参照頁

客先ご用意のヒューミディスタットで湿度検知する場合

ヒューミ付リモコンで湿度検知する場合

VCJ2200A内蔵ヒューミディスタットで湿度検知する場合

警報について

参考

2 客先ご用意の外部ヒューミディスタットで湿度検知する場合

※ヒューミディスタット無し / 湿度検知をしない場合も本章の内容を参照してください。

2-1 試運転準備



警告

ディップスイッチ切替作業は、必ず漏電ブレーカを遮断してから行う

ⓘ 通電したままの作業は感電の原因になります。

● 試運転前には下記の諸点を必ず確認し、不都合な点があれば必ず修正してください。

- 水準器を使用し、加湿器本体が水平に取り付けられていること
- 給水配管のリングジョイントが確実に接続され、軟銅管の折れやつぶれのないこと
- 排水ホースはホースバンドで確実に接続され、排水配管は 1/100 以上の先下がり勾配が確保され、流れに障害がないこと
- 立ち上げ配管の場合、塩ビ管（呼び径 13mm）またはホース（内径φ 15）を使用し、立ち上げ高さが 800mm 以内（天井面からは最大 1200mm）に施工されていること
- 各電気配線が正しく接続・固定されていること
- ヒューミディスタットが無い（湿度検知を行わない）場合はリモコンスイッチを接続した加湿器本体の端子 L1, L2 が短絡されていること
- グリル枠と天井板の間に、すき間やずれがないこと
- 天井面点検口の位置が適正であること（配管部などの保守作業に支障がないこと）
- 給水配管のフラッシングが十分に実施されていること
- P.2 ~ 4 記載の「試運転前の設定確認項目」の設定が実施済みであること（別冊の設定要領書参照）
- 加湿器本体内部コントロールユニットのディップスイッチ設定が現場の制御要件に合っていること（表 1、表 2 参照）

表 1 運転信号出力（外部信号出力）を使用する場合のディップスイッチ設定（P.15 図 -5 を参照）

運転信号出力状態		ディップスイッチ設定	備考
電源表示灯と連動 （初期設定）	運転ボタン「入」、 または外部指令信号入力「ON」で出力		スイッチ切り忘れ防止の遠方監視を行う場合に使用します。
加湿表示灯と連動	運転ボタン「入」、 または外部指令信号入力「ON」かつ ヒューミディスタット入力「ON」で出力		実際に加湿運転しているかどうかの状態監視を行う場合に使用します。

表 2 外部指令信号入力による遠方発停（外部指令制御）を使用する場合のディップスイッチ設定（P.15 図 -5 を参照）

信号の種類と配線接続	ディップスイッチ設定	備考
常時入力信号 （初期設定）		運転時に ON、停止時に OFF となる接点信号を入力してください。
瞬時入力信号		瞬時入力信号は、100msec（0.1 秒）以上の a 接点の信号を入力してください。

● 試運転開始にあたっては、下記の準備作業を行ってください。

- 給水サービス弁を開ける
 - ヒューミディスタットの設定を最大にする
 - 加湿器元電源の漏電ブレーカを ON にして電源を供給する
 - リモコンスイッチの警報表示灯が点滅していないことを確認する
- ※リモコンスイッチ初期設定（アドレス設定）を行っていない場合、警報表示灯が点滅します。
この場合、別冊の設定要領書または、QR コードより手順を参照し、リモコンスイッチ初期設定（アドレス設定）を行ってください。設定を行わない場合、加湿器を運転することはできません。



【動画】リモコンスイッチ初期設定（アドレス設定）

機器構成の確認と参照頁

客先ご用意のヒューミディスタットで湿度検知する場合

ヒューミディスタットで湿度検知する場合

VOC 2000A 内蔵ヒューミディスタットで湿度検知する場合

警報について

参考

2-2 試運転手順

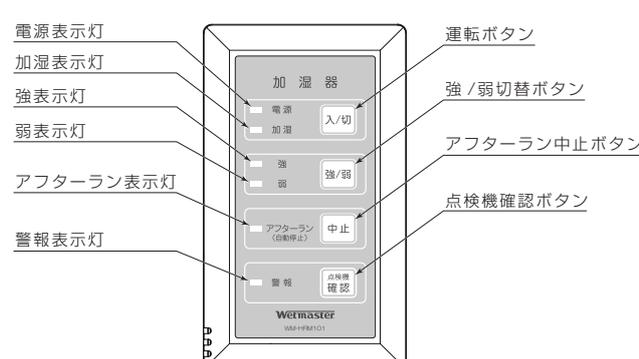


警告

ディップスイッチ切替作業は、必ず漏電ブレーカを遮断してから行う

⚠ 通電したままの作業は感電の原因になります。

- 準備ができたなら下記の手順で試運転を行い、加湿器が正常に動作することを確認してください（次頁の試運転チェックリストをご活用ください）。

作業手順	注記
<p>① リモコンスイッチの運転ボタンを押し、電源表示灯・加湿表示灯・強表示灯が点灯し、約 10 分後に加湿器本体内のファンが運転を開始することを確認する。</p>  <p>電源表示灯 加湿表示灯 強表示灯 弱表示灯 アフターラン表示灯 警報表示灯</p> <p>加湿器 電源 入/切 加湿 強 強/弱 弱 アフターラン (自動停止) 中止 警報 点検機確認</p> <p>運転ボタン 強/弱切替ボタン アフターラン中止ボタン 点検機確認ボタン</p>	<p>※ 運転ボタンを押しても左記の動作とならない場合は、「加湿要求信号がない（ヒューミディスタットの設定）」、「アドレス設定がされていない」などの原因が考えられます。QR コードから FAQ を参照し、原因を特定してください。</p>  <p>【Web サイト / FAQ】 「加湿器が運転しない」</p>
<p>② 運転開始の約 15 分後、ドレン排水用ポンプの運転音がすること、加湿器本体内部コントロールユニットの LED10 (P.15 図-5 参照) が点灯していることを確認する。 ※ドレン排水用ポンプ起動までの時間は、給水圧力により変動します。</p> <p>③ そのまま 30 分間運転を継続し、本体および配管各部からの水もれのないこと、リモコンスイッチ警報表示灯の点灯、警報信号出力がないことを確認する。</p> <p>④ 強 / 弱切替ボタンを押して弱運転に切り替え、ファンの送風音が弱くなること、異音が無いことを確認する。</p> <p>⑤ ヒューミディスタットの設定目盛りを動かして接点を ON/OFF させ、加湿表示灯が点灯 / 消灯することを確認する（ファンは加湿器運転開始約 10 分後に運転を開始します）。</p> <p>⑥ リモコンスイッチの運転ボタンを押して加湿運転を終了させ、アフターラン表示灯のみが点灯することを確認する（アフターランは約 2 時間後に自動的に終了します）。</p>	<p>※ ドレン排水用ポンプはドレンパンに 750ml 程度の水が溜まると作動します。</p> <p>※ 試運転作業中に、リモコンスイッチの警報表示灯が点灯した場合は、加湿器本体内部コントロールユニット LED の点灯状態を確認してください。警報表示の解除と対処方法は、P.14 「5-2 警報表示の原因と処置」を参照してください。</p> <p>※ 擬似的に警報を発報させる場合は、P.14 5-3 「疑似警報発報手順とリセット方法」を参照してください。</p>

2-3 試運転後の作業と最終点検

- 試運転が終了したら、ヒューミディスタットの設定を希望湿度に合わせてください。
- 安全のため、最終点検をお願いします。不都合な点があれば必ず修正してください。

- 加湿器本体は水平ですか？
- 給水配管からの水もれはありませんか？
- 排水配管からの水もれはありませんか？
- 排水配管の先下り勾配は確保されていますか？
- 本体内部での水もれはありませんか？（化粧グリルを開けて内部点検）
- 各電気配線は正しく接続・固定されていますか？

機器構成の確認と参照頁

客先ご用意のヒューミディスタットで湿度検知する場合

ヒューミディ付リモコンで湿度検知する場合

VCCJ2000A内蔵リモコンディスタットで湿度検知する場合

警報について

参考

でんらい加湿器 試運転チェックリスト

作業年月日： _____

作業会社名： _____

作業担当名： _____

- てんまい加湿器 / VCJタイプの施工後の試運転確認を下記の項目で実施いたしました。
- 機器単体の正常動作を確認するもので、能力検証を行うものではありません。

対象機器： 滴下浸透気化式加湿器 WM-VCJ2200 / WM-VCJ2200A
湿度検知： 外部ヒューミディスタットまたはヒューミディスタット無し（湿度検知をしない）

物件名： _____

確認項目	確認事項	備考	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10
① 設置位置	設置位置の記録	階数、東西南北、部屋名、系統など										
② 加湿器型番	VCJ2200 または VCJ2200A	VCJ2200A の場合は当該加湿器の欄「A」に○を記入	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
③ Lot. No.	ロット番号の記録	化粧グリルを開けると確認できます										
④ Ser. No.	シリアル番号の記録											
実施項目	作業箇所	判定事項	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10
① 給水配管のフラッシング	現場給水配管・フラッシングバルブ	フラッシングが実施され、供給水に汚濁・臭気がないこと										
② 運転信号出力の設定	加湿器本体内基板（コントロールユニット）上のディスプレイスイッチ DS3 を確認	A 「電源表示灯と運動」 B 「加湿表示灯と運動」	<input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B									
③ 外部指令信号入力の設定	加湿器本体内基板（コントロールユニット）上のディスプレイスイッチ DS3 を確認	A 「常時入力信号」 B 「瞬時入力信号」	<input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B									
④ アドレス設定の実施	リモコンスイッチ	電源投入後、警報表示灯が点滅した場合、アドレス設定がされていません。強/弱切替ボタンとアフターラン中止ボタンを同時に3秒以上長押し、アドレス設定を実施する										
⑤ ヒューミディスタット接続の有無	加湿器本体端子 L1, L2	ヒューミディスタットが接続されている加湿器の <input type="checkbox"/> 接続 <input type="checkbox"/> 接続にチェック ヒューミディスタット無しで湿度検知をしない場合は、端子 L1, L2 が短絡されていること	<input type="checkbox"/> 接続 <input type="checkbox"/> 短絡									
⑥ ヒューミディスタットとの運動確認【起動】	客先ご用意の外部ヒューミディスタット（ヒューミディスタット無しの場合は該当しません）	加湿信号 ON によりリモコンスイッチ加湿表示灯が点灯し、10分後に本体ファンが起動										
⑦ ヒューミディスタットとの運動確認【停止】	客先ご用意の外部ヒューミディスタット（ヒューミディスタット無しの場合は該当しません）	加湿信号 OFF によりリモコンスイッチ加湿表示灯が消灯しファンが停止する										
⑧ 加湿モジュール湿潤状態の確認	加湿器本体加湿モジュール	加湿モジュール下流側を手で軽く触れ、全面が濡れていること										
⑨ 加湿器送風ファン動作確認	リモコンスイッチ	「強/弱」切替ボタンとファンの動作が連動し、異音の無いこと										
⑩ ドレン排水用ポンプ動作確認	加湿器本体ドレン排水用ポンプコントロールユニットの LED10	運転開始約15分後にドレン排水用ポンプの運転音がすること コントロールユニットの LED10 が点灯すること										
⑪ 異常検知加湿器停止確認	加湿器本体リモコンスイッチ	濡れた布などで漏水センサを擬似的に検知させ、加湿器が停止しリモコンスイッチ警報表示灯が点灯すること										
⑫ 水もれが無いことを確認	加湿器本体給排水配管	30分間運転を継続し、加湿器本体内部および配管各部から水もれの無いこと										
⑬ アフターランにて作業終了	リモコンスイッチ	運転ボタンを押して電源表示灯を消灯させ、アフターラン表示灯のみ点灯すること										
※ 2 時間後、自動的に加湿器本体はアフターラン動作を停止し、【アフターラン】表示灯が消灯します。												

備考 【作業後の状態】 給水バルブ： 開・閉 漏電ブレーカ： ON・OFF ヒューミディスタット設定： 初期設定 40% RH から変更 無・有（ _____ % RH）
✓：実施
×：未実施
-：該当無し

3 ヒューミ付リモコンで湿度検知する場合

3-1 試運転準備



警告

ディップスイッチ切替作業は、必ず漏電ブレーカを遮断してから行う

⚠ 通電したままの作業は感電の原因になります。

● 試運転前には下記の諸点を必ず確認し、不都合な点があれば必ず修正してください。

- | | |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 水準器を使用し、加湿器本体が水平に取り付けられていること <input type="checkbox"/> 給水管のリングジョイントが確実に接続され、軟銅管の折れやつぶれの無いこと <input type="checkbox"/> 排水ホースはホースバンドで確実に接続され、排水配管は1/100以上の先下がり勾配が確保され、流れの障害がないこと <input type="checkbox"/> 立ち上げ配管の場合、塩ビ管（呼び径 13mm）またはホース（内径φ 15）を使用し、立ち上げ高さが800mm以内（天井面からは最大 1200mm）に施工されていること | <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 各電気配線が正しく接続・固定されていること <input type="checkbox"/> グリル枠と天井板の間に、すき間やずれがないこと <input type="checkbox"/> 天井面点検口の位置が適正であること（配管部などの保守作業に支障がないこと） <input type="checkbox"/> 給水管のフラッシングが十分に実施されていること <input type="checkbox"/> P.2～4 記載の「試運転前の設定確認項目」の設定が実施済みであること（別冊の設定要領書参照） <input type="checkbox"/> 加湿器本体内部コントロールユニットのディップスイッチ設定が現場の制御要件に合っていること（表 3、表 4 参照） |
|---|---|

表 3 運転信号出力（外部信号出力）を使用する場合のディップスイッチ設定（P.15 図-5 参照）

運転信号出力状態	ディップスイッチ設定	備考
電源表示灯と連動 （初期設定）		スイッチ切り忘れ防止の遠方監視を行う場合に使用します。
加湿表示灯と連動		実際に加湿運転しているかどうかの状態監視を行う場合に使用します。

表 4 外部指令信号入力による遠方発停（外部指令制御）を使用する場合のディップスイッチ設定（P.15 図-5 参照）

信号の種類と配線接続	ディップスイッチ設定	備考
常時入力信号 （初期設定）		 運転時に ON、停止時に OFF となる接点信号を入力してください。
瞬時入力信号		 瞬時入力信号は、100msec（0.1 秒）以上の a 接点の信号を入力してください。



以下の「試運転モード」ディップスイッチ切替作業は、活線作業（DC5V、DC12V）となります必ず、絶縁用保護具を着用するか活線作業用器具を使用してください

⚠ 適切な保護具、器具を使用しない場合は感電の原因になります。



リモコンスイッチケースの損傷に注意

⚠ リモコンスイッチケースを開ける際は、マイナスドライバの先にウエスを挟むなどの養生を行ってください。

基板の取り扱いに注意

⚠ リモコンスイッチ基板は上ケースに付いています。取り扱いの際は基板の損傷に注意してください。また基板へのゴミや水分などの付着は短絡の原因になります。

● 試運転開始にあたっては、右記の「試運転モードへの切り替え作業」を行ってください。

- 加湿器元電源の漏電ブレーカを ON にする
- リモコンスイッチの警報表示灯が点滅していないことを確認する*
*リモコンスイッチ初期設定（アドレス設定）を行っていない場合、警報表示灯が点滅します。この場合、別冊の設定要領書または、P.9のQRコードより手順を参照し、リモコンスイッチ初期設定（アドレス設定）を行ってください。設定を行わない場合、加湿器を運転することはできません。
- 給水サービス弁を開ける
- リモコンスイッチケースを開け、上ケース内ユニットのディップスイッチ DS201（2 番ピン）を ON にし、試運転モードを「入」にする（図-1）
2 番ピン以外は必ず OFF のままとしてください
- 試運転モードへの変更後はリモコンスイッチケースを元通りに閉める

図-1 試運転モードへの切り替え作業

● リモコンスイッチに内蔵されたヒューミディスタットを無効にし、リモコンスイッチのボタン操作により加湿器の運転/停止を可能にします。下記要領で切り替えてください。



ディップスイッチ DS201

試運転モードの切替

2番ピン	試運転モード
ON	入
OFF	切

※初期設定は全て下(OFF)です。2番ピン以外は必ず OFF としてください。

機器構成の確認と参照頁

客先ご用意のヒューミディスタットで湿度検知する場合

ヒューミ付リモコンで湿度検知する場合

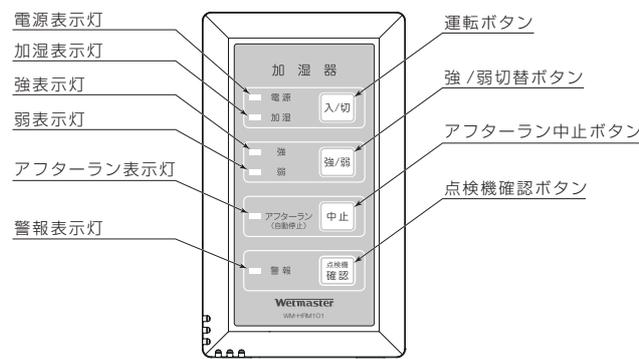
VJCR2000A内蔵リモミディスタットで湿度検知する場合

警報について

参考

3-2 試運転手順

- 準備ができたなら下記の手順で試運転を行い、加湿器が正常に動作することを確認してください（次頁の試運転チェックリストをご活用ください）。

作業手順	注記
<p>①リモコンスイッチの運転ボタンを押し、電源表示灯・加湿表示灯・強表示灯が点灯し、約 10 分後に加湿器本体内のファンが運転を開始することを確認する。</p>  <p>②運転開始の約 15 分後、ドレン排水用ポンプの運転音がすること、加湿器本体内部コントロールユニットの LED10 (P.15 図-5 参照) が点灯していることを確認する。 ※ドレン排水用ポンプ起動までの時間は、給水圧力により変動します。</p> <p>③そのまま 30 分間運転を継続し、本体および配管各部からの水もれのないこと、リモコンスイッチ警報表示灯の点灯、警報信号出力がないことを確認する。</p> <p>④強 / 弱切替ボタンを押し弱運転に切り替え、ファンの送風音が弱くなること、異音が無いことを確認する。</p> <p>⑤リモコンスイッチの運転ボタンを押し加湿運転を終了させ、アフターラン表示灯のみが点灯することを確認する（アフターランは約 2 時間後に自動的に終了します）。</p>	<p>※ 運転ボタンを押しても左記の動作とならない場合は、「アドレス設定がされていない」、「外部機器と連動設定されている」などの原因が想定されます。 QR コードから FAQ を参照し、原因を特定してください。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>【動画】 リモコンスイッチ 初期設定 (アドレス設定)</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>【Web サイト / FAQ】 「加湿器が運転しない」</p> </div> </div> <p>※ドレン排水用ポンプはドレンパンに750ml程度の水が溜まると作動します。</p> <p>※試運転作業中に、リモコンスイッチの警報表示灯が点灯した場合は、加湿器本体内部コントロールユニット LED の点灯状態を確認してください。 警報表示の解除と対処方法は、P.14 「5-2 警報表示の原因と処置」を参照してください。</p> <p>※擬似的に警報を発報させる場合は、P.14 5-3 「疑似警報発報手順とリセット方法」を参照してください。</p>

3-3 試運転後の作業と最終点検



以下の「試運転モード」ディップスイッチ切替作業は、活線作業（DC5V、DC12V）となります
必ず、絶縁用保護具を着用するか活線作業用器具を使用してください

- ❗ 適切な保護具、器具を使用しない場合は感電の原因になります。

- 試運転が終了したら、下記の作業を行ってください。
 - ① P.8 図-1 を参照しディップスイッチ DS201 (2 番ピン) を OFF にし、試運転モードを「切」にする
 - ② リモコンスイッチケースを元通りに閉める

- 安全のため、最終点検をお願いします。不都合な点があれば必ず修正してください。

- 加湿器本体は水平ですか？
- 給水配管からの水もれはありませんか？
- 排水配管からの水もれはありませんか？
- 排水配管の先下がり勾配は確保されていますか？
- 本体内部での水もれはありませんか？（化粧グリルを開けて内部点検）
- 各電気配線は正しく接続・固定されていますか？
- リモコンスイッチの上ケース内ユニットのディップスイッチ (P.8 図-1) は全て OFF になっていますか？
- リモコンスイッチケースは閉まっていますか？



【PDF】
「ヒューミ付リモコン
各種設定内容の確認」



【PDF】
「ヒューミ付リモコン
湿度設定の変更」

でんまい加湿器® 試運転チェックリスト

作業年月日： _____
 作業会社名： _____
 作業担当名： _____

(/)

対象機器： 滴下浸透気化式加湿器 WM-VCJ2200 / WM-VCJ2200A
 湿度検知： ヒューミ付リモコン

物件名： _____

- てんまい加湿器 / VCJタイプの施工後の試運転確認を下記の項目で実施いたしました。
- 機器単体の正常動作を確認するもので、能力検証を行うものではありません。

確認項目	確認事項	備考	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10
① 設置位置	設置位置の記録	階数、東西南北、部屋名、系統など										
② 加湿器型番	VCJ2200 または VCJ2200A	VCJ2200Aの場合は当該加湿器の欄「A」に○を記入	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
③ Lot. No.	ロット番号の記録	化粧グリルを開けると確認できます										
④ Ser. No.	シリアル番号の記録											
実施項目	作業箇所	判定事項	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10
① 給水配管のフラッシング	現場給水配管・フラッシングバルブ	フラッシングが実施され、供給水に汚濁・臭気がないこと										
② 運転信号出力の設定確認	加湿器本体内部コントロールユニットのディップスイッチ DS3	<input type="checkbox"/> A 「電源表示灯と連動」 <input type="checkbox"/> B 「加湿表示灯と連動」	<input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B									
③ 外部指令信号入力の設定確認	加湿器本体内部コントロールユニットのディップスイッチ DS3	<input type="checkbox"/> A 「常時入力信号」 <input type="checkbox"/> B 「瞬時入力信号」	<input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B									
④ アドレス設定の実施	リモコンスイッチ	電源投入後、警報表示灯が点滅した場合アドレス設定がされていません。リモコンスイッチの強/弱切替ボタンとアフターラン中止ボタンを同時に3秒以上長押し、アドレス設定を実施する										
⑤ 「設定確認モード」によるヒューミ付リモコン上の設定確認	リモコンスイッチ	ヒューミ付リモコンによる湿度検知に設定されている外部機器との連動設定「無」▶「有」（初期時設定「連動無し」）	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 低									
⑥ 運転動作確認	リモコンスイッチ	試運転モードにおいて、運転ボタンONで加湿表示灯が点灯、10分後に本体ファンが起動し、運転ボタンOFFで加湿表示灯が消灯しファンアフターラン表示灯が点灯する										
⑦ 加湿モジュール湿度状態確認	加湿器本体内部加湿モジュール	加湿モジュール下流側を手で軽く触れ、全面が濡れていること										
⑧ 加湿器送風ファン動作確認	リモコンスイッチ	「強/弱」切替ボタンとファンの動作が連動し、異音の無いこと										
⑨ ドレン排水用ポンプ動作確認	加湿器本体内部ドレン排水用ポンプコントロールユニットのLED10	運転開始約15分後にドレン排水用ポンプの運転音がすること 加湿器本体内部コントロールユニットのLED10が点灯すること										
⑩ 異常検知加湿器停止確認	加湿器本体リモコンスイッチ	濡れた布などで漏水センサを疑似的に検知させ、加湿器が停止しリモコンスイッチ警報表示灯が点灯すること										
⑪ 水もれが無いことを確認	加湿器本体給排水配管	30分間運転を継続し、加湿器本体内部および配管各部から水もれの無いこと										
⑫ アフターランにて作業終了	リモコンスイッチ	運転ボタンを押して電源表示灯を消灯させ、アフターラン表示灯のみ点灯すること										
⑬ 試運転モードの解除	リモコンスイッチ	※2時間後、自動的に加湿器本体はアフターラン動作を停止し、アフターラン表示灯が消灯します。 ヒューミ付リモコン上ケース DS201 の2番ピンがOFF										

備考 【作業後の状態】 給水バルブ： 開・閉 漏電ブレーカー： ON・OFF ヒューミディスプレイタクト設定： 初期設定 40% RH から変更 無・有 (% RH)

- ✓：実 施
- ×：未 実 施
- ：該 当 無 し

4 VCJ2200A 内蔵ヒューミディスタットで湿度検知する場合

4-1 試運転準備



警告

ディップスイッチ切替作業は、必ず漏電ブレーカを遮断してから行う

⚠ 通電したままの作業は感電の原因になります。

● 試運転前には下記の諸点を必ず確認し、不都合な点があれば必ず修正してください。

- 水準器を使用し、加湿器本体が水平に取り付けられていること
- 給水配管のリングジョイントが確実に接続され、軟銅管の折れやつぶれのないこと
- 排水ホースはホースバンドで確実に接続され、排水配管は 1/100 以上の先下がり勾配が確保され、流れの障害がないこと
- 立ち上げ配管の場合、塩ビ管（呼び径 13mm）またはホース（内径φ15）を使用し、立ち上げ高さが 800mm 以内（天井面からは最大 1200mm）に施工されていること
- 各電気配線が正しく接続・固定されていること
- グリル枠と天井板の間に、すき間やずれがないこと
- 天井面点検口の位置が適正であること（配管部などの保守作業に支障がないこと）
- P.2～4 記載の「試運転前の設定確認項目」の設定が実施済みであること（別冊の設定要領書参照）
- 給水配管のフラッシングが十分に実施されていること
- 加湿器本体内部コントロールユニットのディップスイッチ設定が現場の制御要件に合っていること（表 -5、表 -6 参照）

表 5 運転信号出力（外部信号出力）を使用する場合のディップスイッチ設定（P.15 図 -15 参照）

運転信号出力状態		ディップスイッチ設定	備考
電源表示灯と連動 (初期設定)	運転ボタン「入」、 または外部指令信号入力「ON」で出力		スイッチ切り忘れ防止の遠方監視を行う場合に使用します。
加湿表示灯と連動	運転ボタン「入」、または外部指令信号入力「ON」 かつヒューミディスタット入力「ON」で出力		実際に加湿運転しているかどうかの状態監視を行う場合に使用します。

表 6 外部指令信号入力による遠方発停（外部指令制御）を使用する場合のディップスイッチ設定（P.15 図 -15 参照）

信号の種類と配線接続	ディップスイッチ設定	備考
常時入力信号 (初期設定)		運転時に ON、停止時に OFF となる接点信号を入力してください。
瞬時入力信号		瞬時入力信号は、100msec (0.1 秒) 以上の a 接点の信号を入力してください。

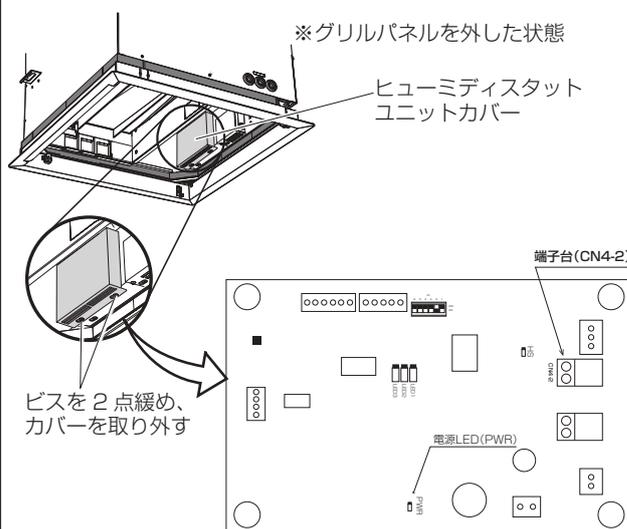
● 試運転開始にあたっては、下記の準備作業を行ってください。

- 給水サービス弁を開ける
- ヒューミディスタットユニットのカバーを取り外し、ヒューミディスタットユニットの CN4-2 (図 -2) を短絡する
※CN4-2 を短絡することで、加湿器本体に内蔵されたヒューミディスタットの設定湿度に関係なく運転します。
※CN4-2 の短絡は棒端子またはより線にて接続してください。
※ディップスイッチ S1 の 5～6 番ピンは、必ず OFF にしてください。
- 加湿器元電源の漏電ブレーカを ON にして電源を供給する。
- リモコンスイッチの警報表示灯が点滅していないことを確認する。アドレス設定を行っていない場合、警報表示灯が点滅します。この場合、別冊の設定要領書または、QR コードより手順を参照し、アドレス設定を行ってください。アドレス設定を行わない場合、加湿器を運転することはできません。



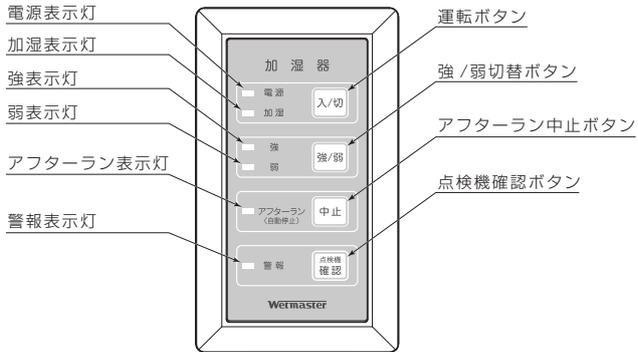
【動画】リモコンスイッチ初期設定（アドレス設定）

図 -2 VCJ2200A ヒューミディスタットユニット詳細



4-2 試運転手順

- 準備ができたなら下記の手順で試運転を行い、加湿器が正常に動作することを確認してください（次頁の試運転チェックリストをご活用ください）。

作業手順	注記
<p>①リモコンスイッチの運転ボタンを押し、電源表示灯・加湿表示灯・強表示灯が点灯し、約 10 分後に加湿器本体内のファンが運転を開始することを確認する。</p>  <p>②運転開始の約 15 分後、ドレン排水用ポンプの運転音がすること、加湿器本体内部コントロールユニットの LED10 (P.15 図 -5 参照) が点灯していることを確認する。 ※ドレン排水用ポンプ起動までの時間は、給水圧力により変動します。</p> <p>③そのまま 30 分間運転を継続し、本体および配管各部からの水もれないこと、リモコンスイッチ警報表示灯の点灯、警報信号出力がないことを確認する。</p> <p>④強 / 弱切替ボタンを押して弱運転に切り替え、ファンの送風音が弱くなること、異音が無いことを確認する。</p> <p>⑤リモコンスイッチの運転ボタンを押して加湿運転を終了させ、アフターラン表示灯のみが点灯することを確認する（アフターランは約 2 時間後に自動的に終了します）。</p>	<p>※ 運転ボタンを押しても左記の動作とならない場合は、「アドレス設定がされていない」などの原因が想定されます。 QR コードから FAQ を参照し、原因を特定してください。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>【動画】 リモコンスイッチ 初期設定 (アドレス設定)</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>【Web サイト / FAQ】 「加湿器が運転しない」</p> </div> </div> <p>※ドレン排水用ポンプはドレンパンに 750ml 程度の水が溜まると作動します。</p> <p>※試運転作業中に、リモコンスイッチの警報表示灯が点灯した場合は、加湿器本体内部コントロールユニット LED の点灯状態を確認してください。 警報表示の解除と対処方法は、P.14 「5-2 警報表示の原因と処置」を参照してください。</p> <p>※擬似的に警報を発報させる場合は、P.14 5-3 「擬似警報発報手順とリセット方法」を参照してください。</p>

4-3 試運転後の作業と最終点検

- アフターランが終了しファンが停止した後に、ヒューミディスタットユニットのカバーを取り外し、ヒューミディスタットユニットの CN4-2 (P.11 図 -2) の短絡を外してください。
- 安全のため、最終点検をお願いします。不都合な点があれば必ず修正してください。

- 加湿器本体は水平ですか？
 - 給水配管からの水もれはありませんか？
 - 排水配管からの水もれはありませんか？
 - 排水配管の先下がり勾配は確保されていますか？
 - 本体内部での水もれはありませんか？（化粧グリルを開けて内部点検）
 - 各電気配線は正しく接続・固定されていますか？
 - ヒューミディスタットユニットの CN4-2 (P.11 図 -2) の短絡は外されていますか？



【PDF】
「ヒューミ付リモコン
各種設定内容の確認」



【PDF】
「ヒューミ付リモコン
湿度設定の変更」

機器構成の確認と
参照頁

客先ご用意のヒューミディ
スタットで湿度検知する場合

ヒューミ付リモコンで
湿度検知する場合

VCCJ2200A内蔵ヒューミ
ディスタットで湿度検知する場合

警報について

参考

でんらい加湿器® 試運転チェックリスト

作業年月日： _____
 作業会社名： _____
 作業担当名： _____

(/)

対象機器： 滴下浸透気化式加湿器 WM-VCJ2200 / WM-VCJ2200A
 湿度検知： WM-VCJ2200A 内蔵ヒューミディスタット

物件名： _____

- てんまい加湿器 / VCJタイプの施工後の試運転確認を下記の項目で実施いたしました。
- 機器単体の正常動作を確認するもので、能力検証を行うものではありません。

確認項目	確認事項	備考	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10
① 設置位置・系統	設置位置の記録	階数、東西南北、部屋名、系統など										
② 加湿器型番	VCJ2200 または VCJ2200A	VCJ2200A の場合は当該加湿器の欄「□A」にチェック	<input type="checkbox"/> A									
③ Lot. No.	ロット番号の記録	化粧グリルを開けると確認できます										
④ Ser. No.	シリアル番号の記録											
実施項目	作業箇所	判定事項	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10
① 給水配管のフラッシング	現場給水配管・フラッシングバルブ	フラッシングが実施され、供給水に汚濁・臭気がないこと										
② 運転信号出力の設定確認	加湿器本体内コントロールユニット ディップスイッチの DS3	A 「電源表示灯と運動」 B 「加湿表示灯と運動」	<input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B									
③ 外部指令信号入力の設定確認	加湿器本体内コントロールユニット ディップスイッチの DS3	A 「常時入力信号」 B 「瞬時入力信号」	<input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B									
④ アドレス設定の実施確認	リモコンスイッチ	電源投入後、警報表示灯が点滅した場合、アドレス設定がされていません。リモコンスイッチの強/弱切替ボタンとアフターラン 中止ボタンを同時に3秒以上長押し、アドレス設定を実施する										
⑤ 「設定確認モード」によるヒューミ付リモコン上の設定確認	リモコンスイッチ	VCJ2200A 内蔵ヒューミディスタットによる湿度検知に設定 外部機器との運動設定「無」▶「有」（初期時設定「運動無し」）	<input type="checkbox"/> 有									
⑥ 湿度検知を行う VCJ2200A の確認	本体内ヒューミディスタットユニット	ヒューミディスタットユニットのディップスイッチ S1 の4番ピンがON ※加湿器制御グループ（最大10台）の内1台が該当										
⑦ 運転動作確認	リモコンスイッチ	ヒューミディスタットユニット端子台 CN4-2 が短絡された状態で、 運転ボタンONで加湿表示灯が点灯、10分後に本体ファンが 起動し、運転ボタンOFFで加湿表示灯が消灯しファンが停止する										
⑧ 加湿モジュール湿度状態確認	加湿器本体内加湿モジュール	加湿モジュール下流側を手で軽く触れ、全面が濡れていること										
⑨ 加湿器送風ファン動作確認	リモコンスイッチ	強/弱切替ボタンとファンの動作が連動し、異音の無いこと										
⑩ ドレン排水用ポンプ動作確認	加湿器本体内ドレン排水用ポンプ コントロールユニットのLED10	運転開始約15分後にドレン排水用ポンプの運転音がすること 加湿器本体内コントロールユニットのLED10が点灯すること										
⑪ 異常検知加湿器停止確認	加湿器本体 リモコンスイッチ	濡れた布などで漏水センサを疑似的に検知させ、加湿器が停止し リモコンスイッチ警報表示灯が点灯すること										
⑫ 水もれが無いことを確認	加湿器本体 給排水配管	30分間運転を継続し、加湿器本体内部および配管各部から水もれ の無いこと										
⑬ アフターランにて作業終了	リモコンスイッチ	運転ボタンを押して電源表示灯を消灯させ、アフターラン表示灯 のみ点灯すること ※2時間後、自動的に加湿器本体はアフターラン動作が停止し、アフターラン表示灯が消灯します。										
⑭ 湿度検知無効化の解除	ヒューミディスタットユニット端子台	端子台 CN4-2 の短絡線の取外し										

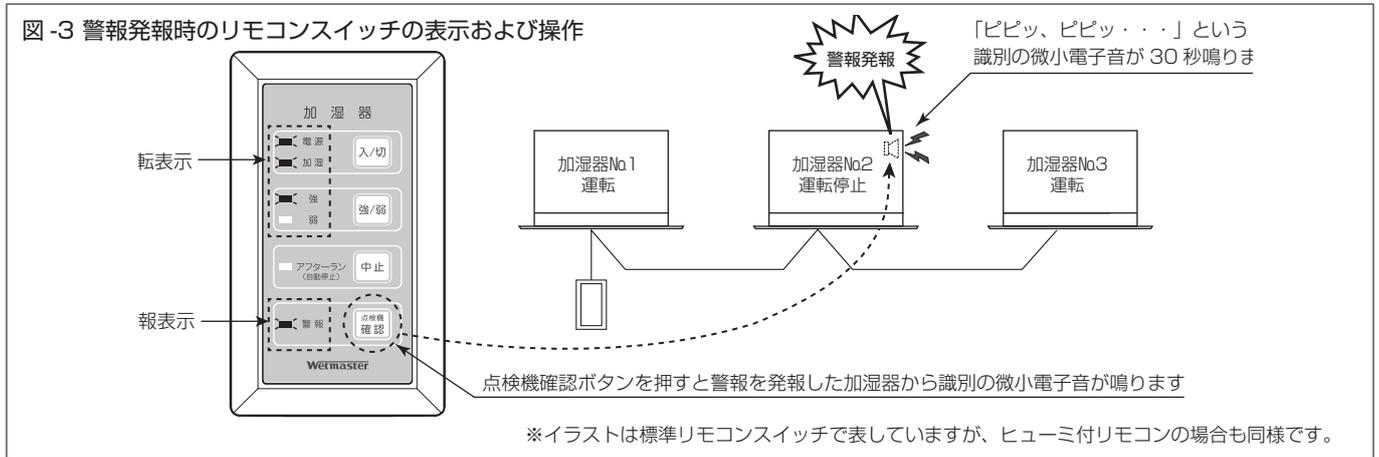
備考 【作業後の状態】 給水バルブ： 開・閉 漏電ブレーカ： ON・OFF ヒューミディスタット設定： 初期設定 40%RH から変更 無・有 (%RH)

- ✓：実施
- ×：未実施
- ：該当無し

5 警報について

5-1 警報発報時の運転停止動作およびリモコンスイッチの表示について

- 1つのリモコンスイッチで加湿器本体を複数台制御する場合には、安全保護機能が作動した加湿器のみ運転を停止します。この時、リモコンスイッチの表示は運転状態の表示と警報発報の表示の両方を表示します（図-3）。
- 警報発報時に点検機確認ボタンを押すと警報を発報した加湿器より微小電子音が30秒間鳴ります。加湿器本体からの電子音を確認することで警報を発報した加湿器が特定できます（微小電子音を途中で止めたい場合には点検機確認ボタンをもう一度押します）。



5-2 警報表示の原因と処置

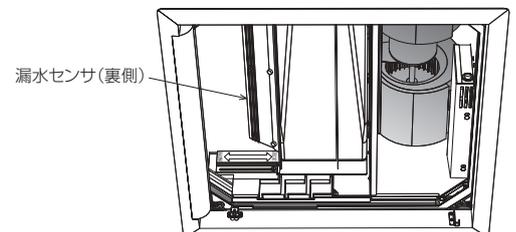
警報表示	警報の内容	原因と処置
リモコンスイッチの警報表示灯が点灯 コントロールユニットのLED3（赤）が点灯	「ドレンパン高水位」を検知	原因 ・ 加湿器本体が水平でない ・ 排水配管の先下がり勾配が不十分 ・ 排水配管に極端な曲がりや空気だまりがある
		処置 給水サービス弁を閉めてください。原因を特定し、修正してください。
		解除方法 処置後、加湿器元電源の漏電ブレーカを一度OFFにする。 コントロールユニットのリセットスイッチ BS1 を押す（P.15 図-5 参照）。
リモコンスイッチの警報表示灯が点灯 コントロールユニットのLED4（緑）が点灯	「漏水」を検知	原因 本体内の水滴回収板の漏水センサに水滴が付着（水滴飛散）している。
		処置 本体内の水滴回収板の漏水センサ部の水滴を拭き取る。
		解除方法 処置後、加湿器元電源の漏電ブレーカを一度OFFにする。 コントロールユニットのリセットスイッチ BS1 を押す（P.15 図-5 参照）。
リモコンスイッチの警報表示灯が点灯 コントロールユニットのLED5（黄）が点灯	「給水電磁弁リーク」を検知	原因 給水ユニットがリークしています。
		処置 給水サービス弁を閉めてください。弊社宛てサービスを依頼してください。
		解除方法 処置後、加湿器元電源の漏電ブレーカを一度OFFにする。 コントロールユニットのリセットスイッチ BS1 を押す（P.15 図-5 参照）。
リモコンスイッチの警報表示灯が点灯 コントロールユニットのLED5（黄）またはLED7（緑）が点灯	「ドレン排水用ポンプ排水異常」を検知	原因 ・ 加湿器ドレンパン上の汚れ ・ 排水配管の先下がり勾配が不十分 ・ 排水配管に極端な曲がりや空気だまりがある
		処置 給水サービス弁を閉めてください。原因を特定し、修正してください。
		解除方法 処置後、加湿器元電源の漏電ブレーカを一度OFFにする。 コントロールユニットのリセットスイッチ BS1 を押す（P.15 図-5 参照）。

5-3 擬似警報発報手順とリセット方法

- 擬似警報を発報した場合、外部出力も行われますのでご注意ください。

- ① 漏水センサに濡れた布などをあてる（図-4 参照）
- ② 加湿器が運転を停止し、リモコンスイッチの警報表示灯が点灯することを確認する
- ③ 漏水センサを乾いた布などで拭き、乾かす
- ④ 加湿器本体内部コントロールユニットのリセットスイッチ BS1 を押す（P.15 図-5 参照）

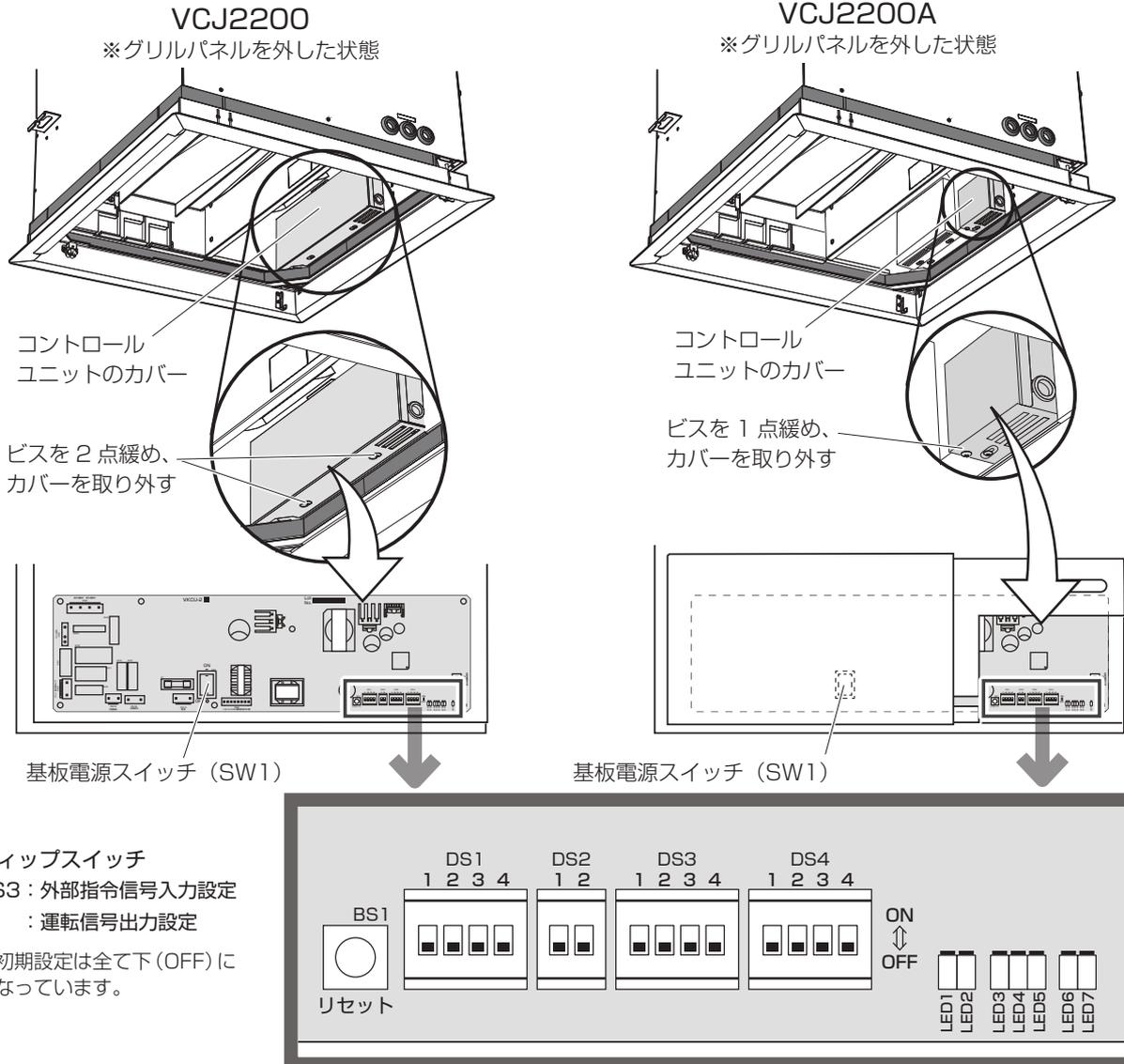
図-4 漏水センサの位置



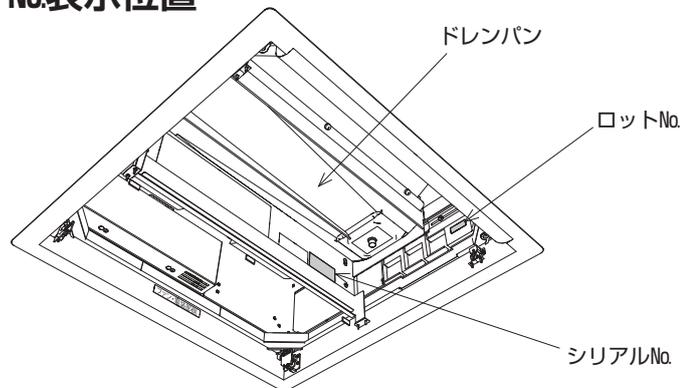
6 参考

6-1 コントロールユニット詳細

図-5 コントロールユニット外観略図



6-2 シリアルNo.、ロットNo表示位置



ウエットマスター株式会社

<https://www.wetmaster.co.jp>

保守サービス営業本部 〒161-8531 東京都新宿区中落合 3-15-15WM 本社ビル TEL.03-3954-1110 FAX.03-3954-1163
大阪支店 TEL.06-4790-6606 名古屋営業所 TEL.052-745-3277 仙台営業所 TEL.022-772-8121 福岡営業所 TEL.092-471-0371

5710-019000

機器構成の確認と
参照頁

客先ご用意のヒューミティ
スタートで湿度検知する場合

ヒューミティリモコンで
湿度検知する場合

VCJ2200A内蔵ヒューミ
ティスタートで湿度検知する場合

警報について

参考